

令和5年度海田町総合教育会議

議事録(要旨)

1. 招集年月日 令和6年2月15日(木)
2. 招集の場所 海田町役場 4階委員会室
3. 開会(開議) 令和6年2月15日(木) 11時00分宣告
4. 出席者

町長 竹野内 啓佑 教育長 佐々木 智彦

委員 林 孝 委員 米丸 禎宏 委員 大野 恵美子

委員 竹岡 美佳

5. 事務局の職氏名

副町長 山崎 真紀 企画部長 鶴岡 靖三

教育次長 森山 真文 企画課長 石田 順也

学校教育課長 小村 孝広 学校教育課主幹 立田 春美

学校教育課主幹 高木 和希 学校教育課課長補佐 世良 啓

学校教育課係長 流出 陽介 企画課係長 古谷 旭

企画課員 阿部 夏希

6. 本日の議事日程

議題 海田東小学校本館建替基本構想骨子(案)について

7. 議事の内容

11:00 開始

○司会 企画課長（石田）

それでは、定刻となりましたので、令和5年度海田町総合教育会議を始めさせていただきます。まず、開会に当たり町長の竹野内より御挨拶申し上げます。

○町長（竹野内）

本日は、教育委員の皆様方には、ご多忙の中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。私は今回、初めてこの会議に出席させていただきますが、本町の未来を担う子どもたちの成長や町民の生涯に渡る学びの充実のため、委員の皆様と前向きかつ未来志向な意見交換ができればと考えております。

昨年度の会議の議題であった海田東地区拠点施設整備については、その後の検討の中で、海田東小学校とは切り離し、公共施設等の総合的なマネジメントの中で検討することになりました。

海田東小学校本館の建替については、速やかに基本構想を策定することとし、今回の会議で、基本構想の骨子案について、意見交換をしたいと思います。

ぜひ教育委員の皆様方も思いを共有しながら、子どもたちが主人公となる教育になるように、また、本町の教育行政がより良いものになるように、率直

な意見交換の場となることを心から祈念して、私の冒頭の挨拶としたいと思っています。本日はよろしくお願いいたします。

○司会 企画課長（石田）

これより議事に移ります。ここからの進行については町長にお願いいたします。

○町長（竹野内）

それでは、この会議の設置目的に即した有意義な意見交換ができればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。まずは、議題について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 学校教育課長（小村）

本日は海田東小学校本館建替基本構想骨子（案）について説明させていただき、その後に御意見、御質問等をお伺いできればと思いますので、よろしくお願いいたします。

大きい項目としましては、「Ⅰ 海田東小学校本館建替基本構想の策定について」、「Ⅱ 海田東小学校本館建替基本構想骨子（案）について」、「Ⅲ 海田東小学校本館建替に関するアンケート調査について」の順でレジュメに沿って説明させていただきます。

では最初に「Ⅰ 海田東小学校本館建替基本構想の策定について」でございます。

3 ページをお願いします。海田東小学校本館建替事業について、これまでの経緯を御説明します。

海田町における今後の学校施設整備に関して、令和 3 年 2 月に学校施設の維持管理等に係るトータルコストの縮減と更新等に係る費用の平準化を図りつつ、学校施設に求められる機能・性能を確保するための整備計画として「海田町学校施設長寿命化計画」を策定しました。

この中で、海田東小学校本館についてはコンクリート圧縮強度の状況により「長寿命化改修」を行う施設として位置づけました。

その後、令和 4 年 12 月に事業実施段階における「長寿命化」か「建替」の最終判断のために、より詳細な老朽化調査を実施した結果、躯体等のコンクリートについて経年劣化が著しく、将来にわたって長く使用する場合、建替のほうがより効果的であると判断いたしました。

そして、令和 5 年 3 月議会において、令和 5 年度当初予算へ海田東小学校本館整備経費を含む海田東地区拠点複合施設整備事業関連経費を計上したところ、複合施設ではなく、海田東小学校本館整備経費と海田東公民館再整備経費として議決となりました。

令和 5 年 9 月議会にて町議会議員提案の海田東小学校及び海田小学校の早期建替を求める決議が議決。その後、令和 5 年 11 月全員協議会において、教育委員会学校教育課内に校舎建替推進チームを設置し、海田東小学校本館建

替基本構想策定に着手することを報告し、現在に至ります。

4 ページをお願いします。海田東小学校本館建替基本構想の策定にあたり、海田町教育委員会学校教育課（校舎建替推進チーム）を事務局として、海田中学校区学校運営協議会内に海田東小学校校舎建替検討部会を設置し、協議を進めながら策定していくものでございます。

5 ページをお願いします。海田東小学校校舎建替検討部会の構成員については、記載のとおりでございます。

6 ページをお願いします。海田東小学校本館建替につきましては、次のようなスケジュールを想定しています。基本構想を策定した後、基本計画・基本設計、地質調査、実施設計、建築工事と進み、供用開始は令和 11 年度を想定しています。

7, 8 ページをお願いします。基本構想の策定にあたっては、関係者の皆様へのヒアリングや意見聴取、アンケート、報告を行うこととしております。総合教育会議や教育委員会会議、議会、検討部会で適宜ご説明させていただくとともに、2 月から 3 月にかけて教職員や保護者の皆様にアンケート調査を行う予定です。総合教育会議については、7 ページの No. 3 が本日の会議で、次回は 8 ページの No. 1 2 で、基本構想(案)の説明を行い、ご意見をいただく予定としております。

また、保護者に対しては、令和 6 年 3 月、6 月、9 月の計 3 回、説明会を行

う予定としております。

次に「Ⅱ 海田東小学校本館建替基本構想骨子（案）について」でございます。基本構想の骨子（案）については、記載の 1 から 12 の項目の設定を考えております。

続いて「Ⅲ 海田東小学校本館建替基本構想の内容について」順に説明させていただきます。

まず、「1 概要等」についてでございます。海田東小学校本館は、昭和 39 年に建築され、その後昭和 42 年に増築されており、延床面積は 2,973 m²となっております。

令和 4 年度に実施しました「2 本館老朽化詳細調査の結果」では、昭和 39 年建築部分、昭和 42 年建築部分ともに耐力度点数が 4500 点以下でありました。耐力度点数が 4500 点以下となった場合は、構造上危険な状態にある建物（危険建物）として、学校施設環境改善交付金（危険改築）の対象となります。

こちらが老朽化詳細調査において老朽化状況の悪かった箇所の写真です。左側、真ん中は、それぞれ玄関、屋根の写真で、庇裏がひび割れを起こし、剥がれ落ちております。右側は、梁の一部のコンクリートを削り、コンクリート内部の鉄筋を調査した際の写真です。大部分が赤さびに覆われています。

15 ページをお願いします。この調査の結果を受けまして、「3 老朽化対策

の方向性」といたしまして、「将来にわたって長く使用を考える場合は、長寿命化改良工事よりも建替のほうがより効率的である。」と結論付けております。

主な理由といたしましては、コンクリートについて、鉄筋錆に伴う剥落が各所で確認され、危険な状態であること。また、今後、長寿命化改良工事を行ったとしても、コンクリートの中性化やコンクリートのひび割れ等による鉄筋錆とコンクリートの剥離等の劣化は、完全に抑制できるとは考えられず、30年後に躯体そのものの健全性は大幅に低減されるためでございます。

続きまして、「4 基本構想策定の前提条件」及び「5 海田小学校周辺の町づくりの方向性」についてでございますが、上位計画である「第5次海田町総合計画」「海田町都市計画マスタープラン」等を参考として作成してまいります。

続きまして、「6 海田東小学校の沿革・概要」及び「7 海田東小学校経営計画」につきましては、「海田東小学校学校要覧」「海田町学校施設長寿命化計画」等を参考として作成してまいります。

18 ページをお願いします。「8 児童数・学級数の将来見通し」についてでございます。

児童数の将来見通しでは、令和7年度をピークに減少するものと見込まれます。この見通しをもとに学級数を推計しますと、学級数は今後22学級が続く見通しとなっており、学級の増減はなく横ばいの状況となりますので、この学

校規模を想定することとなります。

19 ページをお願いします。「9 学校職員、保護者からの聞き取りにより校舎建替に係る要望」につきましては、関係者の皆様からのご意見を聴取、アンケート調査を実施し、その結果を記載いたします。「10 基本理念と整備コンセプト」につきましては、国が示す教育振興計画、第5次海田町総合計画等を踏まえ、建替に係る基本理念・整備コンセプトを定めてまいります。「11 建替の整備方針」は、校舎建替に係る要望及び建替に係る基本理念・整備コンセプト等を踏まえ、整備方針を定めてまいります。最後に「12 建替に係るスケジュール」についてですが、基本構想の策定を令和6年度9月までとし、令和11年度の供用開始をめざし、進めてまいる予定でございます。

21 ページをお願いします。「IV 海田東小学校建替に関するアンケート調査について」でございます。先ほどから御説明しております保護者等へのアンケートの内容についてご説明いたします。

22 ページをお願いします。アンケート調査は、海田東小学校の保護者、全小学校の教職員の校舎等に関する意見や考えを把握し、海田東小学校本館建替基本構想の策定のため、参考資料とすることを目的として実施するものです。

(2) 調査期間は、令和6年2月22日（木）から令和6年2月29日（木）まででございます。

(3) 予定調査対象者数は、海田東小学校の保護者 403 人（1 年～6 年の長子数）、町内全小学校の教職員 118 人でございます。保護者向けアンケートにおいて、在学児童が複数名いる場合は、長子の学級での回答のみとすることを想定しております。

23 ページをお願いします。(4) 調査方法は、Google Workspace を利用したオンライン回答でございます。

(5) 調査項目は、①建替えをする際に最も大切にしたい項目について②配慮してほしい教室等について③自由記述でございます。①、②については、それぞれ選択肢から 3 つ選び、理由も記載していただきます。24 ページ、25 ページに実際のアンケート案を記載しております。これらのアンケート結果も踏まえた上で、基本構想を策定してまいります。

以上で海田東小学校本館建替基本構想骨子（案）についての説明を終わります。

○町長（竹野内）

ありがとうございました。

以上の説明を受けて、委員の皆さまからご意見等あればお願いいたします。

○事務局 教育次長（森山）

補足させていただきます。1 回目の基本構想検討部会は、教育長と林委員さん、海田東小学校の校長先生や PTA など関係者の方に出席してもらい、1 月 10

日に行いました。その時とタイトルが変わっているのですが、それは全般的に言葉が難しいというご意見をいただいたので、「改築」という言葉と「建替」という言葉を置き換えました。専門用語だと改築がメインで使われるようですが、建替の方がわかりやすいということで置き換えています。また保護者等へのアンケートも先ほどお示ししましたが、こちらも平易な言葉でというご意見がありましたので、できるだけわかりやすく作っています。また当初は海田東小学校の先生のみアンケートをとる予定でしたが、転勤の可能性もあるという御意見もあり、全ての小学校の先生にアンケートを取ることにしました。色々な意見は汎用性をもって使えるので、自分の小学校が改築されるとしたらということを想定してアンケートを取ります。また今後、この結果をもとに保護者説明会でも適宜情報提供をしていく予定です。

あくまでも構想のゴールは基本理念やコンセプトなど大枠・概要を決めることです。今後そのコンセプトを決めた上で、令和 6 年度に基本計画基本設計を行う際、広さや教室数、整理すべき機能や設備面を検討していきます。つきまして本日は、どんな学校像を作るかという大枠の面で様々なご意見をいただければと思います。ただ機能面の御意見もどこかの時点では反映されますので、せっかくの機会ですので何でも御意見をいただけたらと思います。補足は以上です。

○教育委員（竹岡）

校舎建替えということは一旦全部崩して、一から作るということになりますが、その期間は子どもたちの授業をどのようにするのか、どこに仮校舎を建てるというのは大体決まっているのでしょうか。

○事務局 学校教育課長（小村）

今の場所に建て替える場合には仮校舎が必要になり、別の場所に建て替える場合には今の校舎が使えるということになるので、色々想定して考えていると思っています。ただ、建替によって子どもの学びを止めないということ为前提に計画を整理していきたいと考えています。状況的には基本計画の中で校舎の配置計画等を検討するので、今のグラウンドをどういう風に整備していくのかを検討する中で仮設校舎等の話も出てくる状況です。

○教育委員（米丸）

児童数の推移について、今の海田東小学校区の括りは変えないということでしょうか。三迫地区などの海田南小学校区の児童数が増えてきて海田南小学校がいっぱいになってくると、ゆくゆくは校区の変更も可能性があるのか、その辺りも踏まえて考えているのでしょうか。

○事務局 教育次長（森山）

海田中学校区に限って話をすると、ここに示しているのが海田東小学校の児童数の推移です。40年で大体50人から60人減になるということですが、1学級35人に単位を落としていますので、学級数自体は変わりません。70人

を超えたら、3 学級にしないといけないということで、学級の中の人数は減りますが、学級母体の数は減らないという状況です。海田南小学校の児童数はこの資料にはありませんが、令和 12 年をピークにして 730 人ぐらいから減っていきます。となると、少なくとも今の学校規模で児童数 720 人ぐらいまでの学級数は確保できます。今年、特別教室を工事して通常学級として使えるようにしますので、それで 2 学級増やすと今の校舎の状態で海田南小学校もマックスの時期を超えられます。となると、校区の再編をして、例えば人数が減ってきているから、海田南小学校から海田東小学校に一部の区分けを変えるということは現状では想定していません。

ただ、これが海田西中学校になると少し状況が違いまして、海田小学校の児童数はしばらく増え続けます。海田西小学校も微増です。ですので、この場では海田東小学校の建替を考えていますが、海田小学校の改築でいくと、今は 16 学級ですが最大 22 学級ぐらいになる想定で建替をしないといけないかもしれないという現状です。そこは学校の校区や区割りによって、多少校舎の規模感も変わります。現時点での海田南小学校と海田東小学校の状況としてはそういう形で、校区の割り振りは変えない想定をさせていただいております。

○教育委員（大野）

どんな学校にするのかを考えたときに、学校は子どもたちが主人公なので、子どもたちにとって安心安全な環境づくりが大切だと思います。それから、人

と関わりながら、先生と関わりながら、色々な学年と関わりながら学べる環境を作るという構想をお願いしたいと思います。どんな学校を作るかというのは色々あると思います。新しい学校へ視察に行くと廊下や教室が広く、いろいろな部屋も作れるという学校もありました。机も広く、タブレットと教科書を置けるような工夫もされていました。

本日の説明を聞いて私が良いと思ったのは、全教職員にアンケートを取るという方向性です。実際に学校で働いていて感じる不便な点や、隣の教室や他の学年の先生と連携したい、そして、物事を解決したいというときに、既定の教室では収まり切らないことがあるので、ぜひアンケートを実施して、その結果を少しでも活かした新しい学校ができたら良いと思いました。

○事務局 教育次長（森山）

校長先生や教務主任の先生も参加された前回の検討部会で最初に言われたのは、「集会ができる場所が欲しい」ということでした。一学年 80 名ぐらいの子ども達が狭くても座って話ができる場所であったり、2 クラスを繋げることができたり、そういうものが機能的にあると良いという話が出ました。あとは地域の方との交流ができて、地域の方も利用しやすいスペースの話も出ました。最近は防災や安全安心という面で、学校に避難所の機能も持たせないといけないので、「地域と共に」という視点は必ず入れて、必要に応じて地域と共有できる開かれたスペース、例えばゲストティーチャーを呼んで地域の方々

と交流しながら勉強を進めていけるような空間を作って、勉強や防災に役立ててほしいということを言われましたので、そういう部分は入っていくと思います。

色々な意見が先生方や保護者の方から出てくると思うので、希望をどこまで実現できるかというのがありますが、コンセプトの中には入れ込んで、それをもとに設計していくことになると思います。ただあまり欲張ると予算的に難しくなるので、折衷案を取りながら、機能面の構想を行おうと思います。

○事務局 学校教育課長（小村）

アンケート案の 1 番ですが、この項目については今ご意見をいただいたものも含まれていると思います。基本的に文科省が学校施設を建てる時の今後の指針とするものを土台にしているのと、ここ最近、色々な県の先進的な事例を見ていて、各学校がどういったところを重点的に造っているかという項目を入れて作ってあります。さらに「その他」や自由記述の欄も設けて幅広くご意見をいただきたいという思いでこのようにまとめています。

○教育委員（大野）

ゆとりのある教室等の整備については、本当に実現していただきたい項目です。女性教育委員で福山の学校に視察に行きましたが、一人ひとりの児童机が大きかった。ただそれは特注で、かなり予算が必要と言われましたが、これからの 10 年から 30 年、50 年を見通した整備が大切だと思いました。単価が

高いとなれば仕方がないですが、そういう環境というものが大切なので、なるべくできる方向で進めていただきたいと思います。

○事務局 教育次長（森山）

先ほどの小村の説明の補足です。ここ 3、4 年が教育環境の整備の転換点になっていて、一番具体的なものとしては一人 1 台端末を持つギガスクール構想があります。それから、全国的に築 60 年近くの校舎が増えてきて、建替が急務となっている自治体が 9 割になっている中で、令和 4 年に文部科学省が新しい学びを実現させるために必要な機能についてのメニューを示しました。多目的スペースや情報のセンター化・学校の図書館の充実等は、学習に関してとても大きいものです。それから地域の避難所としての機能、脱炭素などエネルギー問題といったことが全て学校の中に求められてきています。箱を建ててその中で子どもたちを教育していくというものから、ちょうど令和 3 年から 5 年あたりを転換点に、多種多様・多機能で子どもたちの学びを実現させる方向になっています。早いところでは平成 26 年頃から学校を建て替え始めていますが、海田町は今後建て替え予定なので、今出されている機能をできるだけ反映できるという所は大きな利点で、时期的にも良かったと思っています。ぜひこういう機能も含めてできればいいと思っています。

○町長（竹野内）

子育て世代は教育環境が整った地域を選ぶ傾向にあります。昨今広島県は

若い人が戻ってこないという報道がありましたが、教育環境を整えるためにはそれなりのコストがかかるので、そういった投資を行い、海田っ子たちが将来戻ってきたいと思えるような街にならないといけない。そのためには子どもたちから地域愛を育むような環境も大事だろうと思います。先ほど教育次長からのコメントでありましたように、地域に開かれた学校を今後作っていく流れの中で、地域の人達はその学校と関係を構築できるような空間づくりが、非常に重要なテーマになっています。建物の中に共用化して入ってくるのが一般的な手法だと思いますが、例えば海田東地区は、今は宅地開発がなされて、子どもたちが自然に触れ合う機会が徐々に少なくなっていると思います。私の子どもも自然豊かな環境であるにも関わらず、家の中で遊んでばかりで外遊びが減っているので、例えば学校の敷地内に住民の方と触れ合える公園みたいなものを整備して、みんなで農作業をしてその収穫を楽しめるなど、地域との緩やかな関係を構築できるようなものが取り入れられたら、それが地域の風土や環境にあった学校づくりになると思います。

○教育長（佐々木）

色々な学校に行くと、いいなと思う反面、発達障がいを中心とした特別支援教育には配慮できていない面も見かけます。海田小学校で感心するのは、古いけれども教育の理に適っているということです。例えば、グラウンドに水道栓が20設あります。ということは、子どもたちが遊んで帰るとき20の蛇口が

あり、当時の 1000 人規模の子どもたち皆が手を洗って帰ることができました。

あるいは、各教室の前に水道の流しがあります。今の学校は、例えば 2 クラスで 1 つというような形になっています。いかに当時の人達が、子どもたちの生活に根差した基本的なことをきちんと考えていたかということです。あるいは学校によっては敷地の関係で、迷路のような学校があります。初めて行った人から見ると、緊急時にはどう避難するのだろうと思います。ところが海田小学校は、両脇と中央に階段があり、とてもシンプルです。一番近いところから逃げればどこからでも避難できるような作りになっていて、当時の人が発達段階や子どもの生活場면을どれだけ考えて設計されたかがよく分かります。

古いけれど、使い勝手が良い学校です。ぜひともそういう発達段階や特別支援教育の視点に立って、子どもたちが安全で機能的な学校というのを考えた上で、先ほど町長の言われた住民等の接点や多機能性を考えれば良いのではないかと思います。特に今発達障がいの子どもたちも増えていますので、あまり大人目線で考えず、特別支援教育の環境に何が合うということが示されているので、特別支援学校等を十分参考にするべきではないかと思っています。一旦建ててみて、「これがあだになっている」ということがなるべくないようにしたいと思います。顕著な例が、最近では窓ガラスを透明にすることが多いのですが、過去はすりガラスにする方が圧倒的に多かったです。透明性を確保するために全部透明にしていますが、その辺りもよく考えて設計いくべきだと思います。

いますので、よろしくお願いします。

○教育委員（林）

子どもたちの意見はいつ、どのように入ってくるのでしょうか。学校は子どもたちが主人公ですから、子どもたち自身の「この学校に関わった」という思いが、もう一度帰ってくる動機になると思います。子どもたちが自分たちの学校を作り上げるというのが教育の機会になると思うので、そういったことも考えてほしいです。それが全部可能かどうかわかりませんが、そのようなことがあるといいと思います。

それと海田町の「夢と志を持ち、挑戦する児童生徒の育成」というビジョンを豊かに実現できる、理想的な建物であるということが大事になってくると思います。

この 2 点を考えていただけたらいいと思います。どの時点でそれを使っていくのか、子どもたちの意見を聴取していくかですが、基本設計の中で大綱の部分を考えていかなければならないと思います。

ちなみに、30 年前の話ですが、子どもたちは、身を隠せるようなへこむ場所が好きです。それから矢野南小学校は設計段階では 1 年生・2 年生・3 年生、4 年生・5 年生・6 年生がぐるりと回れるような施設にしていました。そのようなこともきちんと「海田町の学校」ということで考えていただけたらいいなと思います。

最後に、保健室と学校図書館という必置の施設に特色を持たせて、アピールしていただけたらいいなと思います。

○事務局 教育次長（森山）

子どもたちの意見を聞くのは、授業の中なのか、それともワークショップ的に代表者を集めて行うのかというのは今後の学校とのセッションの中で決めていきますが、長いスパンの中で子どもたちの意見を聞いたり、どんな機能が必要かを考えたりする場面は、近い段階で入れていきたいと考えております。子ども抜きで考えて、後で使いにくかったというのはさみしい話なので、子どもの意見も参考にしていけたらと思います。子どもたちの居場所が何なのかということは、確かに聞かないとわからないのかもしれないですね。

○教育長（佐々木）

それと全部に集中投資は難しいでしょうから、林先生がおっしゃるように保健室や図書館はその学校の象徴となる所で、特徴をつけるためにも集中的に投資するのは良いと思います。どれもこれも全部というのは、オプションが多くなり予算が膨れ上がるだけなので。図書館も30年前の図書館と今の図書館では全然違うように、将来的には時代の流れで多少変わってくるとは思います。その流れに応じてフレキシブルにできる方がいいかなと思います。

○副町長（山崎）

教育次長が言いましたように、学校と協議をして、どんな方法をとるのかと

合わせて、町長は就任当初から、ぜひ学校へ行って子どもたちと対話をしたいと申しております。これをできれば海田東小学校から行うのが良いと思います。子どもたちの生の声や夢を全部聞いて、ロボットみたいな校舎が良いといったことはできませんが、学校の教育課程で行うものと町長ミーティングとの両輪で、学校の子どもたちと対話をして、色々な意見を聞いていきたいと考えています。

○町長（竹野内）

良い意見だと思います。学校の建替プロジェクトがある種の教育プログラムのように使えるのではないかと思います。それがつまるところ自分たちが作った学校だというプライドみたいなものになっていくと思います。広い文化的・教育的な政策とそのシビックプライドをうまく組み合わせることで、自分たちの住む町への愛着心・誇りが自然と芽生えてくると思います。このプロジェクトを通じてより多くの児童の皆さんからお話を聞いてみたいですし、ワークショップみたいなものもプロセスの中で取り入れてみたいと思います。

昔から、学校は地域のコミュニティの拠点的なものだったと思います。学校と地域がうまく関係構築できているのかという所を今一度見つめ直す機会としても取り入れたいなと思います。このプロジェクトを通じて地域を育んでいくということと、あとはプロジェクトが終わってそれきりではなくてその後の学校運営を含めて、より関係を強化できるようにしていかなければ

いと思いました。

○教育長（佐々木）

海田東小学校にある『考える人』の銅像は絶対に残してほしいと思います。今、二宮金次郎像はあっても、『考える人』の銅像はあまりありません。海田東小学校は野口英雄の胸像もあります。おそらく卒業記念で設置したのだと思いますが、これは残していくべきだと思っています。

○町長（竹野内）

私は海田小学校出身ですが、二宮金次郎さんの像があることを今でも覚えてますし、そういう記念的なものは残しておきたいですね。

○教育委員（林）

少子高齢化の状況ですが、学校づくりからコミュニティスクールが始まっています。海田東小学校も学校を核とした地域づくりになるようなものとしてほしいです。過疎地域の話を聞くと、学校を中心に自分たちの次の代の子どもをどのように育てていくのかという関心が非常に高いです。

○町長（竹野内）

昨今は保育所や学校から聞こえてくる子どもたちの声がうるさいと言われるような世知辛い世の中になってきていますが、そのような施設は地域の核だと地域の皆さんに思っていたら、そういう考えは自然となくなってくると思いますので、学校と地域が分断することなく共生できる学校づくり

をしていきたいと思います。

○教育委員（竹岡）

先ほどもありましたが、地域との共生やボランティアの方が入って学校を作っていくとなると防災・防犯面も大事だと思います。昨年度、広島県内でも学校への不審者の侵入が起きています。地域に開かれるとすれば、外部からの人の出入りを教職員や大人の目で直接、もしくは防犯カメラでも気づけるようにしてほしいです。そして、いち早く先生方が気づくためには、職員室や保健室の場所も重要だと思います。それは外部の人だけではなくて、遅れて登校してくる子どもたちや何か事情がある子どもたちに気づけるといった内部への視点でも大事だと思います。それを先生方の努力だけで解決するのではなく、教室の配置も大事だと思います。

教育委員会会議で毎月いじめ事案や暴力事案、不登校事案の件数を報告していただきますが、こういう問題が起きやすい死角になる場所を作らない、オープンなスペースを作るとともに、昨今増えている発達の特徴がある子や不登校の子、感覚過敏がある子がクールダウンできるけれど大人は気づけるような狭い場所も作る等、メリハリも必要だという気がします。どんな学校になるのかと楽しみにしているところです。

○教育委員（米丸）

防災となると、その場所は防災上災害危険地域ではないでしょうか。川があ

って、浸水の可能性もあります。そういうのも含めて避難所としての活用を考えると、今の庁舎ではないですけど、嵩上げも考えないといけないのかなと思います。

その地域の方にとって、若い方もどんどん素通りができるような学校というの必要だと思うので、それを含めた総合的な場所を考えていかななくてはいけないと思いました。

○教育委員（大野）

新しい校舎を建てること、建替に関しては、本当に楽しみなのですが、先ほどの話にもあったように、子どもたちが安心安全で、教職員も安心安全、地域の方も利用できるような環境というのは、細かいところでの視点がいると思います。子どもたちからのアンケートをとって、子どもの視点を持たせることも一つの経験として大切かもしれませんし、先ほど教育長が言われたような発達的な障がいを持った子どもや色々な子どもたちがいることを踏まえた配慮というの必要だと思います。一時期は曇りガラスだった窓ガラスを全部透明にしたのはやはり、教室の中で何が起きているのかをいろんな先生方が見てとれるようにという配慮だったのです。そういった様々な視点で考えながら、どういうものが良いか今後検討していくことが必要だと思いました。

○教育委員（竹岡）

先ほど防災の話がありましたが、今回輪島・能登の方で大震災があった際、

輪島の小学校 4 校が一つの学校で授業再開するという話がありました。天応の豪雨災害時にも違う学校に通うということもありました。そういうことを考えたとき、海田町もいつ何が起きるかわかりません。非常事態、緊急事態のために大きな予算をつぎ込むことはできないかもしれませんが、どこかの学校で何かがあっても違う学校で児童生徒が勉強を継続できるような余力がある学校づくり、コンパクトな町なので学校間で支えあえる、支援ができるような学校づくりというのもあるといいと思います。

○教育委員（林）

残る校舎も 3 階建てで、10 近くの教室があります。今はそこまでの話ではできないと思いますが、これから各学年 3 クラスずつになって、本館の建替をすると、教室としてはいくつ残ってどのようになるのかなと思います。広い廊下があって、教室があって、各学年の先生方が協力して学習を進められるようなオープンな学校をイメージしていますが、そういう使い勝手が良く、先生方が協力体制を取りやすいような施設・校舎・学年のスペースができればいいと思います。それができるためには、開かれた組織風土がなければ難しいでしょうし、この辺のところを耕せると良いと思います。建築の問題だけではなくて、そこに誰が住まうのか、憩うのか、学ぶのかということをセットにしないと難しいと思います。かけられるお金は最大限かけて、お金の面は町長ぜひよろしくお願いいたします。

○町長（竹野内）

叱咤激励をいただきました。

では議題としては以上となります。何かご意見等があればお願いしたいのですが、よろしいですか。

他にないようですので本日の会議を終了します。1時間にわたって大変貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。大変実りある意見交換ができたと思いますので、今後の学校プロジェクトで入れられるものは入れさせていただいて、海田町にとって素晴らしい学校になるように、教育委員会と町長部局が一致団結して取り組んでまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

本日は、ありがとうございます。